

保育施設ICTシステム導入事業

実施年度		令和7年度			
事業概要		保護者へアプリの導入により遅刻・欠席連絡のワンタッチ申請や配布物の電子化を図り、保護者が必要な連絡・確認をいつ、どこでも行えるよう整備し、満足度の向上に寄与する。現状朝の電話回線のつながりにくさ等情報共有面において課題が生じているため、アプリの導入により改善を図る。また、子どもの保育記録等をデジタル化することによる情報の共有を行うことで、保護者の利便性向上と保育の質の向上につなげる。			
具体サービス		【実施施設】 町内公立保育所・認定こども園 【コドモンシステム利用サービス】 ・スマートフォンアプリ利用 ・保育管理者サービス ・毎日の登園記録・保護者からの電話連絡・園児情報の共有・保護者へのお便り通知など アプリを介して双方向のやりとりを可能とし、一斉連絡や個別連絡を行うことで保護者側の電話連絡等の手間を省くとともに、保育士側の業務としても負担の多い朝の連絡対応や連絡帳の手書き作業の効率化を図ることができる。			
交付対象事業費		11,432千円			
KPI(指標)		目標値(上段)			直近のKPIについて 【「KPI達成」の場合】達成のための取組内容や工夫及び次年度達成に向けた取組 【「KPI未達成又は未計測」の場合】達成(計測)できなかった理由及び次年度達成に向けた取組
		実績値(下段)			
		令和7年度	令和8年度	令和9年度	
	コドモンアプリダウンロード累計数(単位:人)	310	350	405	◎達成のための取組内容や工夫:余裕をもって事前周知を行ったことやアプリの登録や使用の方法が簡単であること、アプリを活用する利便性の高さがKPI達成に寄与した。スマートフォンの操作が難しい場合や、アプリでの対応が難しい場合は、個別の対応をとり、保護者にとって不利益や不便が生じないよう事務局で対応。 ◎今後に向けた取組:保護者にとっての利便性をより高めていくために、徐々に機能の追加を検討していくとともに、保育士の負担感も軽減し、保育の質の向上に繋げることができるよう取り組み、保育を受ける側と施す側が、保育業務支援システムの導入による効果を双方に感じられるよう運営を図る。
		432			
	欠席連絡におけるアプリの利用率(単位:%)	50	70	80	◎達成のための取組内容や工夫:基本的に欠席連絡はアプリで実施するよう保護者に案内し、規定の時間を過ぎた連絡や急な欠席については、従来通り電話での連絡を依頼。アプリによる欠席連絡の利便性の高さが、導入当初より保護者に好評であることがKPI達成に寄与した。 ◎今後に向けた取組:欠席連絡については、規定の時間を過ぎた連絡や急を要する連絡手段は電話での対応もするが、保護者のアプリ利用率の向上を図るために、欠席連絡は原則としてアプリを活用した連絡をさらに促進し、利用者への利便性も深化させる。
		55			
	子どもの保育環境に関する満足度(単位:ポイント)	3.0	3.2	3.4	◎達成のための取組内容や工夫:日頃から保育士が子どもや保護者とのコミュニケーションを重視しているため、システム導入前後で保護者の保育環境に対する印象に大きな変化はなく、引き続き高い満足度や肯定的な意見が多く見られた。一方で、職員の負担軽減にはシステムの習熟が不可欠である。機能を十分に使いこなすまでは負担感が残ると考えられるため、研修会などを実施し、システムの最大限の活用を図った。 ◎今後に向けた取組:保育業務支援システム導入の本来の目的である、保育士の事務負担軽減を通じた保育環境の充実と質の向上に向け、日常的に使用する記録簿の様式や仕様などを、現場が使いやすいよう整備していく。あわせて、従来通りの対面によるコミュニケーションも重視しながらシステムを活用することで、保育環境に対する満足度をさらに高めていく。
		3.6			
	コドモンサービスの満足度(単位:ポイント)	3.0	3.2	3.4	◎達成のための取組内容や工夫:新システムの導入に対し、当初は抵抗感を持つ保護者も少なからず見受けられたが、アプリ導入に伴う手間よりも利便性の高さを感じてもらえるようアプリに慣れる期間を設けたとともに、保護者にとって容易かつ利便性が高い機能を厳選したことが満足度の高さに繋がった。 ◎今後に向けた取組:利用しやすいシステムとするために、「少ない負担感、より高い利便性」をモットーに、保護者に対する周知や案内を丁寧に行いながら、各種機能を段階的に拡張していくことで、システムのポテンシャルを最大限に引き出し、利用者の満足度を高めていく。
		3.6			